

生活・文化

24 七戸城跡

国指定史跡

概要

七戸領は、南北朝時代初期に南部政長(なんぶまさなが)が拝領しました。

平成3年度から平成15年度まで行われた発掘調査の結果、14世紀末に根城南部八世政光(まさみつ)が、大規模な七戸城築城と、街道や寺院創建等の本格的な整備を行ったと考えられてきています。

もともと七戸城は、南部氏と安藤氏の抗争が激しかった室町時代に、安藤氏がいる北方に対する最前戦基地としての役割を担っていたと考えられています。また時代が下った戦国時代には、津軽に対する備えとして、重要な役割を果たしていたとも言われています。

七戸城北館地区発掘調査の結果、御主殿や奥御殿、常御殿、宝物殿といった掘立柱建物(ほったてばしらたても)の跡をはじめ、職人等が住んでいた竪穴建物跡、井戸、堀跡等も見つかっています。遺物では中国青磁をはじめ、染付け、白磁、国産品では珠洲産、越前産、瀬戸美濃産の陶磁器が出土しており、その暮らしぶりが浮かび上がってきました。



七戸城跡



七戸城跡

南部政光がこの城に来て七戸氏を名乗り、その子孫も在城しましたが、天正19年(1591)七戸家(しちのへいえくに)の時、九戸の乱が起こり九戸政実(くのへまさざね)と共に宗家南部信直(なんぶのぶなお)に反抗して断絶しました。城も豊臣秀吉の諸城破却令で館崩しを命ぜられました。

しかし、南部信直は、七戸の断絶を惜しみ、浅水城主の弟である直勝(なおかつ)に七戸を継がせました。江戸時代初期には、南部直勝、七戸隼人正直時(しちのへはやとのかみなおとき)、重信(しげのぶ)が3代に渡り在城しましたが、寛文4年(1664)重信が29代盛岡藩主となったため、七戸は盛岡藩直轄地となり、幕末(明治維新)まで代官所が置かれることになりました。

土塁上にある縦(もみ、樹高45m50、幹周5m60)と杉(樹高36m、幹周4m60)の巨木は、町のシンボルとなっています。

季節 春～秋

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸町教育委員会生涯学習課 0176-62-9702

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

生活・文化

25

瑞龍寺山門

概要

約120年前に建立された入母屋造りの瑞龍寺山門は、重厚な風格を備えています。

瑞龍寺は、360年前に現在地に移されました。



瑞龍寺山門

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 七戸町文化ガイドの会 0176-51-6100 (七戸町商工観光課内)

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

生活・文化

26

山屋薬師堂

概要

藩政時代までは、薬王院と称する修行の場でした。明治時代の神仏分離以来、薬師堂として瑞龍寺の管轄となっています。本尊の薬師像は、木造三尺の立像です。桂木一木造りのなた彫りで、鎌倉時代初期の秀作です。随所に細かい手法を用いる等、他の東北型仏像にみられない特徴があります。



山屋薬師堂

薬師如来像

七戸町指定有形文化財

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 七戸町文化ガイドの会 0176-51-6100 (七戸町商工観光課内)

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

生活・文化

27 せいがんじ
青岩寺

青岩寺山門

本堂

青森県指定重宝(建造物)

山門

七戸町指定有形文化財

概要

「新撰陸奥国誌」によると、青岩寺は、天正10年(1582)に円良和尚によって開山され、旧螺口というところにあったものを同年に当所へ移したものと伝えています。

七戸地区の中心街にあり、「町寺」として商人・町民に親しまれてきました。

本堂は、入母屋造(いりもやづくり)、向拝(ごはい)1間、銅板葺で、安政2年(1855)の建立とされ、全体的に明治初期のものに近い形式ですが、安政のころからこのような形が造られていることを示す遺構です。

山門は、明治6年(1873)に旧七戸城の城門を移したもので、門の両側には仁王像が置かれています。

季節 通年

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸町文化ガイドの会 0176-51-6100 (七戸町商工観光課内)

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

生活・文化

28 みるまち
見町観音堂

見町観音堂

観音堂

青森県指定重宝(建造物)

概要

応永3年(1396)長慶天皇の菩提を弔うために創建されましたが、現在のものは延宝4年(1676)に再建されたものといわれています。

正面三間・側面三間で宝形造(ほうぎょうづくり)柿葺(こけらぶき)の仏堂は、度重なる修理によって当初の姿がだいぶ失われていますが、古い箇所もいくつか残されており、内部の来迎柱(らいごうばしら)廻り等に当初の面影をしのぶことができます。

青森県内では数少ない室町時代の建築様式を伝える三間堂であり、平成9年1月に創建当初の茅葺屋根に復元されました。

現在は外観のみの公開となっていますが、奉納されていた絵馬、羽子板等は国の「重要有形民俗文化財」に指定されており、鷹山宇一(たかやまういち)記念美術館の絵馬館で見ることができます。

季節 通年

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸町教育委員会生涯学習課 0176-62-9702

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

生活・文化

29 ののうえ NonoUe人形の館



NonoUe 人形の館

概要 廃校になった野々上(ののうえ)小中学校校舎を改装して開館しました。

町出身の現代人形作家で同館館長、奈里多究星(なりたきゅうせい)氏の作品を常設展示している他、多数の著名な人形作家の作品を展示しています。全国でも珍しい現代創作人形専門の美術館として注目されています。

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ NonoUe人形の館 0176-62-5678

提供されるもの ▶ 人形の説明

生活・文化

30 そうぜんたい 蒼前平一里塚

一里塚
青森県指定史跡

概要 慶長9年(1604)の徳川家康の命で旧奥州街道本道に設置された、日本橋から数えて176番目にあたる一里塚です。一対の一里塚と奥州街道の道路跡が200mに渡って完全に残されており、美しさでは全国屈指の一里塚といわれています。

管理 東北電力株式会社 上北変電所

季節 通年

地区 天間林地区



蒼前平一里塚

問合せ先 ▶ 天間史跡勉強会 0176-68-3543(天間)

提供されるもの ▶ 一里塚の説明

エネルギー

31 上北変電所

概要 下北半島に建設される原子力発電所の発電電力を東北電力管内および首都圏に安定供給を図ることを目的として、青森県七戸町に建設されました。

平成25年に上北変電所経由の高圧送電開始が見込まれています。

季節 通年

地区 天間林地区



上北変電所

問合せ先 ▶ 東北電力 八戸営業所総務課 0178-43-5612

提供されるもの ▶ 変電所の見学、発電所の見学

豊かな自然

32 中央公園

概要

14.3haの敷地に「憩いの場」「交流の場」「学習の場」を持つ総合公園です。1年中スポーツやイベントができる人工芝の「屋内スポーツセンター」や、温泉のある宿泊研修施設「ふれあいセンター」を備えています。

公園内にはバンガロー、キャンプ場、スーパースライダー、子供広場等も併設され、大人から子供まで楽しめます。

夏まつりやホワイトバトルの会場としても使用されます。



中央公園

季節 通年

地区 天間林地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸町教育委員会スポーツ振興課 0176-69-1111

提供されるもの ▶ 公園の説明

生活・文化

33 ホワイトバトル

概要

寒い雪上の中で繰り広げられる雪合戦。約90チーム・700人以上が参加し、白熱した試合で盛り上がります。

また、郷土料理の提供や雪あそび体験なども行われます。



ホワイトバトル

会場 七戸町中央公園

季節 2月

地区 天間林地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸町商工観光課 0176-51-6100(七戸町観光交流センター内)

提供されるもの ▶ ホワイトバトルの説明

生活・文化

34 天間館一里塚

概要

慶長9年(1604)の徳川家康の命で旧奥州街道本道に設置された、日本橋から数えて175番目にあたる一里塚です。

大きなケヤキの木が目印となっています。

一里塚

青森県指定史跡

ケヤキの木

七戸町指定有形文化財

季節 通年

地区 天間林地区

問 合 せ 先 ▶ 天間史跡勉強会 0176-68-3543(天間)

提供されるもの ▶ 一里塚の説明



天間館一里塚

豊かな自然

生活・文化

35 奥州街道七戸松並木



奥州街道七戸松並木

国土交通省選定
「歴史国道」

概要

徳川幕府は奥州街道を含む五街道を定め、一里塚の上に榎その他を植えて旅人のための道程標とし、道の両側には防風・防雪と日陰をつくるため松を植えさせました。そんな歴史のある松並木が今も七戸町に残されています。

現在の松並木は明治時代初頭に植栽されたものと言われており、七戸町内の1.6kmは国土交通省に「歴史国道」(国として特に重要な歴史的・文化的価値を有する道路)として選定されています。

季節 通年

地区 全地区

問合せ先 ▶ 七戸町文化ガイドの会 0176-51-6100(七戸町商工観光課内)

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

豊かな自然

36 諏訪牧場

概要

競走馬の生産から育成までを行っている牧場です。

七戸地方は古くからの競走馬の産地で、グリーングラス、タムロチェリー等多くの名馬を輩出しています。

牧場で遊ぶ馬たちを国道4号から眺めることができ、のどかな風物詩となっています。

季節 6月～2月

地区 天間林地区

問合せ先 ▶ 諏訪牧場 0176-62-2131

提供されるもの ▶ 牧場の案内



諏訪牧場

生活・文化

37 しちのへ産直七彩館

概要

道の駅しちのへの産直施設を増設し、「しちのへ産直七彩館」としてオープンしました。

七戸十和田駅に隣接しており、七戸の顔となる施設を目指しています。

新鮮な産直野菜、漬け物等の加工品の販売、そばもちや手打ちそばを食べることができます。



しちのへ産直七彩館

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 道の駅しちのへ 0176-62-5777

提供されるもの ▶ 施設の説明

エネルギー

38 ペレットボイラー(美土里荘)

概要 ▶ 特別養護老人ホーム美土里荘(みどりそう)には、環境に優しいペレットボイラーが導入されています。

季節 冬

地区 天間林地区

問合せ先 ▶ 社会福祉法人美土里会 0176-62-2761

提供されるもの ▶ ボイラーの説明



ペレットボイラー(美土里荘)

豊かな自然

39 ハッピーファーム

概要

旧盛田牧場の敷地で、ミニチュアホースや綿羊、軽種馬等を飼育して、「ふれあい牧場」を開設しています。

町民に憩いの場を提供し、小・中学校の総合学習での社会見学や消費者交流、畜産への理解を深める活動にも力を入れています。

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ ハッピーファーム 0176-62-6393(金子ファーム)

提供されるもの ▶ 施設の説明



ハッピーファーム

生活・文化

40 南部曲屋

概要 ▶ ハッピーファーム(旧盛田牧場)は、明治17年の函館競馬開始後に、アラブ馬中心にサラブレッドも飼育する洋風牧場となりました。1号厩舎は、現存する最古の厩舎で、明治45年に建築された南部曲屋(なんぶまがりや)風厩舎です。

長大で豪壮な茅葺屋根が、近代の牧場景観を伝えるものとして親しまれています。

1～5号厩舎、馬頭観音堂

国登録有形文化財(建造物)

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ ハッピーファーム 0176-62-6393(金子ファーム)

提供されるもの ▶ 施設の見学



南部曲屋

生活・文化

41

鷹山宇一記念美術館

概要

七戸町出身の洋画家・鷹山宇一の作品を中心に、鷹山宇一がコレクションした装飾卓上ランプ、国指定重要民俗文化財である「南部小絵馬」「羽子板」などの庶民信仰資料のほか、スペインの陶器等を展示しています。

その他、定期的に企画展や体験講座等を行っています。



鷹山宇一記念美術館

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 鷹山宇一記念美術館 0176-62-5858

提供されるもの ▶ 美術品鑑賞案内、歴史資料案内、体験講座

生活・文化

42

南部小絵馬・羽子板

概要

絵馬はもともと生きた馬を神にささげる風習が代替されたものといわれています。この「小絵馬」は見町観音堂と小田子不動堂に奉納されており、庶民信仰のありようを今に伝える貴重な絵馬として国指定の文化財になっています。現在は、鷹山宇一記念美術館にある絵馬館に展示・保管されています。



小絵馬



羽子板

国指定重要有形民俗文化財

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 鷹山宇一記念美術館 0176-62-5858

提供されるもの ▶ 歴史資料案内

生活・文化

43 旧七戸郵便局

概要 ▶ 昭和3年に建設されたこの建物は、長い間郵便局として町民に親しまれてきました。近代建築の保護を目的とした、登録有形文化財に指定され、昭和初期のたたずまいを残しています。

国登録有形文化財(建造物)



旧七戸郵便局

所有 個人

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 七戸町文化ガイドの会 0176-51-6100 (七戸町商工観光課内)

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

生活・文化

44 ひげ塚公園

概要 ▶ 工藤轍郎(くどうてつろう、1849～1927)は、私財を投げ打って 12km 離れた熊ノ沢川から、長いトンネルで荒屋平の台地に灌漑し 382ha を拓いた七戸開拓の恩人です。

轍郎の口癖は「土地は耕した人の手に、そして、熟田を作りあげる」でした。大変な難事業でしたが、大工の中野留八(なかのとめはち)と共同で、23年をかけて完成しました。

公園には、彫刻家小坂圭二(こさかけいじ)作の銅像が建っています。



ひげ塚公園

季節 春～秋

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 七戸町文化ガイドの会 0176-51-6100 (七戸町商工観光課内)

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド

45 しちのへ秋まつり

概要

各町内会で昔話や伝説などから題材を選んで山車を自主制作。華麗な山車が市街地を練り歩き、「けんか太鼓」の競演は観客を魅了します。前夜祭や、初日の夜間山車運行、中日の仮装大会と十分に楽しめます。

会場 七戸市街地

季節 9月上旬

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸町観光協会 0176-51-6100

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド



しちのへ秋まつり

46 親孝行踊り

概要

しちのへ秋まつりで披露される「親孝行踊り」は、南部藩主第36代利敬(としたか)公が領民教育のために創った親孝行をすすめる唄と踊りが中心となったものです。舞子は6歳から12歳までの子女でとても可愛い踊りです。

季節 9月上旬

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸神明宮社務所 0176-62-2514

提供されるもの ▶ 観光資源のガイド



親孝行踊り

生活・文化

47 しんめいこう
七戸神明宮

概要

七戸城跡の南東端に位置する神明宮は、応永3年(1396)新町に勧請された。その後、5代藩主南部行信により寛文4年(1664年)に南部家の祈願所とされたほか、明治26年、現在の地に遷宮、七戸地方の総氏神様として町民の信心を集め、親孝行踊りも伝えられています。



七戸神明宮

季節 通年

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸神明宮社務所 0176-62-2514

提供されるもの ▶ 地域資源のガイド

生活・文化

エネルギー

48 レールバス(旧南部縦貫鉄道)

概要▶ 南部縦貫鉄道は、昭和37年10月、地元民の念願として開通した民営鉄道です。千曳駅から現在の十和田市経由で三戸まで線路を延ばす計画でしたが、地形の条件や資金難等から、七戸までの15.4kmで営業を開始しました。その後、千曳駅が移転したため、野辺地駅まで延長しています。

「レールバス」の愛称で親しまれた車両は、沿線住民の足としてばかりでなく農産物等の輸送にも活躍しました。東北新幹線の青森延伸が決まった際、野辺地と新幹線の新駅を結ぶ構想もありましたが、鉄道貨物の廃止、燃料費の高騰、自動車交通の整備等におされ、平成14年に営業を終えました。

現在でも車両とレールの一部が保存されており、見学できます。



レールバス(旧南部縦貫鉄道)

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 南部縦貫株式会社 0176-62-2131

提供されるもの ▶ レールバス、旧七戸駅の案内

49 ニツ森貝塚

国指定史跡

概要

およそ5500年前の遺跡で、土器や人骨等も発見されています。青森県最大の貝塚遺跡です。

縄文時代前期～中期の貝塚および集落遺跡で、明治20年(1887)旧会津藩士の広沢安任(ひろさわやすとう)が学界にはじめて紹介し、明治24年(1891)には地元出身の佐藤重紀(さとうしげのり)により学会誌に発表されました。昭和8年(1933)には喜田貞吉(きたさだきち)・角田文衛(つのだぶんえい)による調査等が行われています。同50年(1975)以降の天間林村教育委員会によって継続した発掘調査および整備の事業が行われ、約3万5千㎡が国史跡に指定されています。

なお、貝塚形成時代の住居跡は貝層下またはその近辺に遺存され、以後の住居跡は貝塚内部の広大な窪地に残されています。

縄文時代前期～中期の円筒土器並びに中期後半期の大木系土器、石器・石製品・土製品、骨角器類(県重宝の鯨骨製青竜刀形骨器等)の他、海水性・汽水性の貝層、魚類・鳥類・哺乳類骨、人骨等が発見されています。

貝層およびその上下層から出土する土器により、縄文時代前期は海水性の貝塚、同中期は汽水性の貝塚が形成され、地球規模で起こった海進海退の現象を如実に示しています。



ニツ森貝塚



ニツ森貝塚

季節 春～秋

地区 天間林地区

問合せ先 ▶ 七戸町教育委員会生涯学習課 0176-62-9702

提供されるもの ▶ 貝塚の説明

生活・文化

50 花松神社



花松神社

概要

広く上北地方馬産家の信仰を集める神社です。主神は保食命（うけもちのかみ）という衣食住・暮らしの神様ですが、保食命の頭から牛馬が生まれたという言い伝えと、軍馬飼育が盛んな南部の土地柄であることから、同時に馬頭観音も祀られたため「馬の神様」として知られるようになりました。

創建は不詳ですが南北朝の時代に守護神として馬頭観音を勧請したのが始まりと伝えられています。建長2年（1597）に再興されたようで宝暦年間に編纂された御領分社堂には「小川目花村観音堂二間三間本山派別当光」と記されています。

花松神社例大祭（4月19日）には農家が五穀豊穡や家内安全を祈願し、地元の子供たちが神楽を奉納します。

季節 通年

地区 天間林地区

問 合 せ 先 ▶ 天間史跡勉強会 0176-68-3543(天間)

提供されるもの ▶ 神社の説明

生活・文化

51 かだれ天間林

概要

グリーンツーリズムを目的とした宿泊交流施設です。「かだれ」には、「仲間にならないか」と「話そう」という二つの意味があります。

農業や自然とのふれあいを楽しく体験するため特産のニンニクや長いも等の収穫体験をはじめ、ハイキングやクッキング等楽しい企画を用意しています。

宿泊施設には囲炉裏があり、昔ながらの郷土料理を堪能できます。

- 「かだれ! 山菜収穫体験」／5月下旬ごろ
- 「かだれ! にんにく里親物語」／(夏編) 6月下旬ごろ (冬編) 2月上旬ごろ
- 「七戸町かだれ塾」／8月上旬ごろ
- 「かだれ! 牧場体験」／8月上旬ごろ
- 「かだれ! りんご収穫体験」／10月下旬ごろ



にんにくの収穫

季節 通年

地区 天間林地区

問 合 せ 先 ▶ 七戸町かだれ田舎体験協議会(事務局・七戸町農林課) 0176-68-2116

提供されるもの ▶ 農業体験、自然体験、郷土料理体験等

52 ヒナコウモリ(コウモリ小舎)、天間館神社

概要 ▶ 天間館神社の境内にあるコウモリ小舎には、繁殖期になると1万2千頭ものコウモリが住みつきます。ヒナコウモリは「レッドリスト(環境省)」に登録されている絶滅危惧種です。

昭和52年に小舎が造られて25年が経ち、ヒナコウモリの日本最大の繁殖地となりました。大掛かりな人工的移住を成功させたことは、全国でも稀です。小舎への立入りはできませんが、季節や時間帯によってはコウモリを野外で観察することができます。



コウモリ小舎



ヒナコウモリ

季節 5～9月頃観察が可能

地区 天間林地区

問合せ先 ▶ コウモリ事務局(七戸町役場 天間孝栄) 0176-68-2117

提供されるもの ▶ コウモリ観察の手ほどき、神社の説明等

53 中野川

概要

大作山の北側から天間地区を流れ、天間館付近で坪川に合流します。



中野川

季節 通年

地区 天間林地区

問合せ先 ▶ 青森県環境政策課 低炭素社会推進グループ 017-734-9241 (環境マイスター派遣)

提供されるもの ▶ 川の環境についての講義・体験

豊かな自然

54 作田川

概要

八幡岳の西麓を源流とし、作田ダムから七戸地区を通って高瀬川に合流します。

七戸城は、作田川沿いの台地に築かれた天然の要害でした。



作田川

季節 通年

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 青森県環境政策課 低炭素社会推進グループ 017-734-9241 (環境マイスター派遣)

提供されるもの ▶ 川的环境についての講義・体験

豊かな自然

55 大林川

概要

野左掛（のさかけ）放牧場付近から七戸地区南側に向かい、十和田市との境を経て高瀬川に合流します。



大林川

季節 通年

地区 七戸地区

問 合 せ 先 ▶ 青森県環境政策課 低炭素社会推進グループ 017-734-9241 (環境マイスター派遣)

提供されるもの ▶ 川的环境についての講義・体験

豊かな自然

56 坪川

概要 ▶ 上流、下流ともに1級河川で、高瀬川と合流します。下流は川幅も広がり流れも穏やかです。

夏は上流で渓流遊びが楽しめます。奥入瀬溪流に比べて人の手が入っていないので、八甲田の大自然を満喫できます。冬になると天間館橋付近に200羽の白鳥が飛来します。

かつては旧南部縦貫鉄道の坪川駅が川のそばにありました。



坪川

季節 通年

地区 天間林地区

問 合 せ 先 ▶ 青森県環境政策課 低炭素社会推進グループ 017-734-9241 (環境マイスター派遣)

提供されるもの ▶ 川的环境についての講義・体験

豊かな自然

57 高瀬川(七戸川)



高瀬川(七戸川)

概要 ▶ 1級河川で、小川原湖より上流は「七戸川」「和田川」と呼ばれることもあります。八幡岳南麓を源流とし、途中で作田川、坪川が合流して小川原湖南西部に流れ込んでいます。小川原湖も高瀬川の一部と見られることから、流入する七戸町と東北町のほとんどの川が高瀬川水系となっています。

季節 通年

地区 七戸地区

問合せ先 ▶ 青森県環境政策課 低炭素社会推進グループ 017-734-9241 (環境マイスター派遣)
提供されるもの ▶ 川の環境についての講義・体験

豊かな自然

58 赤川

概要

青い森鉄道の線路が、千曳（ちびき）から乙供（おとも）付近まで川に沿って走っています。小川原湖に流れ込む少し上流で高瀬川に合流します。



赤川

季節 通年

地区 天間林地区

問合せ先 ▶ 青森県環境政策課 低炭素社会推進グループ 017-734-9241 (環境マイスター派遣)
提供されるもの ▶ 川の環境についての講義・体験

豊かな自然

59 ニツ森排水路

概要 ▶ 町の南西を流れる川で、ニツ森付近で坪川に合流します。



ニツ森排水路

季節 通年

地区 天間林地区

問合せ先 ▶ 青森県環境政策課 低炭素社会推進グループ 017-734-9241 (環境マイスター派遣)
提供されるもの ▶ 川の環境についての講義・体験

4

町内小中学校での環境・エネルギー教育実践例

各小中学校で実践されている環境・エネルギー教育に関する主な活動は以下の通りです。

 各校の授業例

校名	授業名	学年	教科	ページ
天間東小学校	絶滅危惧種を守ろう	小4	理科・総合	32
	ふるさとの自然度を測ろう	全学年	理科・総合	33
	小川原湖の森林	全学年	総合	34
	縄文式土器・石器をつくろう	全学年	総合	35
	「私のお気に入りの木」を増やそう	全学年	生活	36
	七戸川の水質調査	全学年	総合	37
	環境家計簿で地球温暖化防止	全学年	総合	38
	新エネルギーが地球を救う	全学年	総合	39
	風力発電はなぜ3枚羽根	全学年	総合	40
	小川原湖の流れを体感しよう	全学年	社会・総合	41
七戸小学校	住みよいくらしをささえる	小4	社会	42
	電気のはたらき	小4	理科	42
	霧箱実験	小5	出前授業	42
城南小学校	七戸川の生き物調査	小3	総合	43
七戸中学校	紙類のリサイクル	中1～3	総合	44
榎林中学校	ポスターを作って呼びかけよう	中1～3	美術	46

町内の小学校では、小学校4年生でソーラーカーキットの製作(七戸小学校では「電気のはたらき」に含まれている)と小学校5年生で「霧箱実験」を授業に組み込んでいる場合が多いことから、その発展となる授業が効果的と考えられます。

また、小学校1、2年生では、青森県がNPOに委託して行っている環境出前講座「環境紙芝居」「買い物ゲーム」の利用も多いことがわかりました。

【学校名】 天間東小学校

絶滅危惧種を守ろう！

ふるさとにいる絶滅危惧種の観察を通して、
ふるさとの自然のすばらしさや生態系の仕組みの巧みさを体験し、
自然やふるさとを愛する心を育て、守ろうとしていく態度を育成する。

時期 6～7月

学習単位 学級・学年全体

必要時間数・教科領域等 (コマ数、対応教科)

15 時間程度、理科「季節と生物 (春～秋)」、総合的な学習の時間

学習対象となる地域資源 プールビオトープ、各地の用水路

授業の流れ

▶ 理科として

- (1) ネイチャーゲーム「自然ビンゴ」を行い、夏の生物を観察する。
- (2) プールビオトープにどんな生き物がいるか、どんな様子なのか観察する。

▶ 総合的な学習の時間として

- (3) 地域にはどんな生き物がいるか調査する。
- (4) 屋外で調査活動を行う。
- (5) 調査結果をまとめる。
- (6) 絶滅危惧種を保護するために自分たちができることを考える。

準備する物

- 採取用具(網、水槽等)
- 観察用具(実体顕微鏡、アクリル水槽等)
- 記録用デジタルカメラ
- ネイチャーゲームのビンゴ表
- 青森県レッドデータブック
- 図鑑(書籍)

展開

お父さんやお母さんから
昔の自然の話を聞く。



注意 事項

- 自分の生活を振り返り、生き物が住める環境を守っていかうとする意識を持つ。
- 生き物は写真等の記録をとったら、リリースするようにする。